風疹

県感染症情報センター

きなこえ 感染症を知る ◆60◆

昨夏から流行が継続 成人男性に定期接種

風疹（ふうしん）が流行していることについては、昨年10月にもお話ししました。その後、バレンタインデー（2月14日）のころに麻疹（はしか）が大阪市内で多数発生して大きな話題になったため、風疹の流行は終わったような気になっている方もいるかもしれませんが、流行は全く終息していませんし、状況は変わっていません。本年度から3年間にわたって、風疹のワクチンを接種する機会がなかった男性を対象に定期接種が始まります。その情報も盛り込みながら再度、風疹予防についてお話ししたいと思います。

▽昨夏から続く風疹の流行

昨年の7月末から関東地方を中心に風疹の流行が始まり、その後全国へ広がりました。奈良県でも8月から毎月、患者の報告が続いています。前回（平成24～25年）の大流行の時には、寒い時期にはいったん終息していましたが、今回はやむことなく継続しており、このままでは、前回の流行を上回るのではないかと危惧しています。

患者は、ほとんどが成人男性というのは前回と同じで、全国共通です。50代が最も多いですが、20～60代まで広い年代から報告があり、女性は少数ですが10～20代の若い年代から報告があることが問題です。

▽風疹の感染経路と症状

風疹に感染すると、2～3週間程度の潜伏期間の後、発熱、発疹があり、リンパ節が腫れてきます。大人は子どもに比べて症状が長引き、1週間以上仕事を休まなければならないこともありますが、中にははっきりとした症状がなく、風疹と分からない人（不顕性感染）もいます。

風疹ウイルスは、気道粘膜で増殖しています。患者が吐き出す飛沫（ひまつ＝しぶき・つば）などには、ウイルスが多量に含まれており、それを吸い込むことで感染します。患者と距離が近いと、飛沫を受けて感染してしまいます。

▽先天性風疹症候群（CRS）

風疹が問題になるのは、妊娠中に感染することで、目、耳、心臓に障害のある先天性風疹症候群（CRS）の赤ちゃんが生まれる可能性があることです。この可能性は、特に妊娠早期が非常に高く、妊娠1カ月では50％以上、2カ月で35％、3カ月で18％、4カ月で8％です。妊娠していることが分からない時期も含まれるため、妊娠しているかどうかではなく、妊娠する可能性があるかどうかで考えなければなりません。

また、不顕性感染があるので、妊娠中には無症状であっても、赤ちゃんがCRSになることがあります。

前回の流行では、奈良県内ではCRSの報告はありませんでした。しかし、奈良県よりわずかに患者が多かった自治体でCRSが報告されています。前回の患者数を上回ることは、絶対に避けなければなりません。

▽妊娠する女性にウイルスを近づけない

CRSの予防には、女性が十分な抗体価を持ち、感染を受けないことが大切ですが、それだけでは不十分で、まずは女性に風疹ウイルスを近づけないことが基本です。

今回の流行の中心は、ほとんどが男性で、50代が最も多いですが、若い男性も、女性や赤ちゃんを守るため、自身の抗体価も十分にしておく必要があります。また、50代は、そろそろお孫さんができる年代です。たった1本の注射（ワクチン接種）で、お孫さんが障害を一生抱えていくというつらい思いを避けることができるのです。

▽成人男性対象の風疹ワクチン定期接種

本年度から、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性を対象にした風疹ワクチンの定期接種が始まります。初年度の2019年度には、昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性に受診券が送付されます。対象の方は、風疹の抗体価測定、および抗体価が十分ではない場合には風疹含有ワクチン（はしかと混合のMRワクチンが推奨されています）接種を必ず受けるようにしてください。

なお、昭和37年4月2日～昭和47年4月2日生まれの方は、2020年度に受診券が送付される予定ですが、希望すれば本年度でも受診券を発行してもらえますので、市町村にご相談ください。

風疹はワクチンで予防できる感染症です。

（県感染症情報センター）